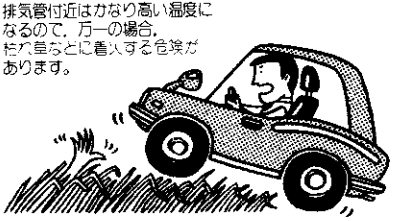
このような取り扱いは危険ですからやめてください！
（トヨタからのお願い）

注意

無断複製禁止

駐停車について

■駐停車するときは枯れ草，わら，紙，布，樹脂，油，古タイヤなど燃えやすいものの付近や上に駐停車しないでください。

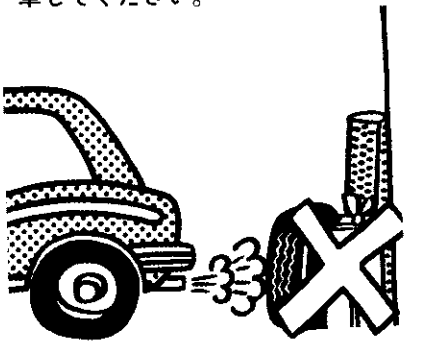


★注意

1．走行後の排気管は高い温度になりますので燃えやすいものが近くにあると着火する危険があります。

2．エンジンを空ふかししたり，高回転を長く続けたりした場合には，排気管からの排気ガスが燃えやすいものに当たり着火する危険があります。

■車庫内に停車するときはあらかじめ後方の確認を十分行なって燃えやすいものがないことを確かめてから停車してください。



★注意

1．排気ガスは場合によっては高い温度になるので万一の場合わらなど燃えやすいものに着火するおそれがあります。

2．木材，ベニヤ板などが車両後方にある場合は，車両後端を30cm以上はなして止めてください。
すき間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり，着火する危険があります。

無断複製禁止

エンジンの始動について

■**始動前には車両後方に燃えやすいものがないことや排気管に枯れ草などが巻きついていないことを確かめてください。**

■**適切な暖機運転をしてください。**

エンジンが冷えているときは，出力の低下，走行性能の悪化など車の性能が十分発揮できません。23ページの「エンジン始動」の項目を参照してください。

★注意

1．暖機運転中は回転が高くなりすぎることがあります。始動後約30秒（外気温20℃のとき）で，アクセル・ペダルを軽く踏んで足をはなし回転を下げてください。（EFI，ディーゼル車を除く）

2．暖機運転中は車からはなれないでください。

■**密閉した車庫内ではエンジンをかけたままにしないでください。**

ガス中毒を起こす危険があります。やむをえない場合は，必ず換気をよくしてください。

■**バッテリーあがりのとき車を押したり，けん引によるエンジン始動をしないでください。**〈ディーゼル車を除く〉

触媒装置の温度が異常に高くなり焼損するおそれがあります。

109ページの「バッテリーあがりの処置」の項目を参照してください。

走行するときは

■**次のような取り扱いはしないでください。触媒装置を焼損するおそれがあります。**〈ディーゼル車を除く〉

1．走行中にエンジン・スイッチを切ること。

2．空ふかし直後にエンジン・スイッチを切ること。

3．充電警告灯が点灯または，電圧計が11V以下を指示したまま運転を続けること。

4．燃料計がE以下になった状態で運転を続けること。

■**暖機が不十分な状態で発進時，極端にアクセル・ペダルをあおることはやめてください。未燃焼ガスが触媒装置に流れ，触媒装置を焼損するおそれがあります。**〈ディーゼル車を除く〉

無断複製禁止

■排気温警告灯が点灯したときは触媒装置の温度が異常に高くなったことを示します。〈ディーゼル車を除く〉

このまま運転を続けますと触媒装置が焼損するおそれがありますので必ず次の処置をしてください。

1．警告灯が点灯したときの，半分程度に速度を落としてください。
2．速度を落としても消灯しない場合は，枯れ草などの燃えやすいもののない場所に停車してください。それでも消灯しない場合はエンジンをとめて冷却してください。冷却したあとで再びエンジンを始動して消灯しているか確認してください。

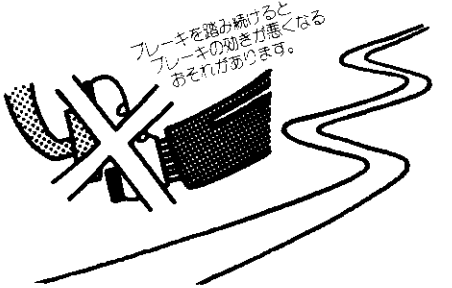
警告灯が消灯した場合はもとのように走行できます。再び点灯する場合はそのまま使用せず点検を受けてください。12ページの「排気温警告灯」の項目を参照してください。

■枯れ草などの燃えやすいもののある場所や，フロア下面に枯れ草などを巻き込むおそれのある場所での走行はさけてください。

■走行中エンジン・スイッチは絶対に切らないでください。

1．ブレーキ倍力装置が作用しないため，ブレーキの効きが悪くなります。
2．パワー・ステアリング付き車は，ハンドル操作が非常に重たくなります。
3．キーが抜けるとハンドルがきれなくなり危険です。

■坂道を下るときはエンジン・ブレーキを活用してください。



長い下り坂でブレーキのみを多用すると，ベーパー・ロックやフェード現象を起こし，ブレーキの効きが悪くなることがあり危険です。エンジン・ブレーキを活用してください。ただし，ぬれた路面または氷雪路での急激なエンジン・ブレーキの使用はさけてください。

無断複製禁止

■**オートマチック・トランスミッション車の場合，ブレーキ操作は必ず右足で行なってください。**

左足でブレーキを踏んだまま，右足でアクセル操作をすると，ブレーキの効きが悪くなったり，ブレーキ・パッドの摩耗を早めるおそれがあります。

■**高速走行中にパンクやバースト（破裂）したときはハンドルをしっかりもって，徐々にブレーキをかけスピードを落としてください。**

急ブレーキをかけるとハンドルを強くとられ危険です。

■**深い水たまりを走行した後あるいは洗車後は，ブレーキが効かなくなったり，効きが悪くなったりするおそれがあります。ブレーキ・ペダルを軽く踏んで効き具合を確認してください。**

ブレーキの効きが悪い場合は前後の車に十分注意してブレーキ・ペダルを軽く踏んで，完全に効く状態になるまで低速で走行し，ブレーキのしめりをかわかしてください。

■**シート・ベルトは必ず装着してください。**

腰部のベルトは腰骨の位置にぴったりと装着しましょう。

38ページの「シート・ベルトの装着」の項目を参照してください。

安全のために

■**車内およびトランク内に燃料がはいった容器やスプレー缶類を持ち込まないでください。**

蒸発ガスに引火したり容器が破損すると非常に危険です。

■**運転席付近に物を置かないでください。**

フロアにころがってブレーキ・ペダルの下にはさまりブレーキ操作ができなくなるなど危険な場合があります。

無断複製禁止

■水温が高いとき，ラジエーター・キャップをはずさないでください。蒸気や熱湯がふき出し，危険です。

■ジャッキを使用するときは正しい位置にセットしてください。
また，駐車ブレーキ，輪止めを忘れないようにしてください。

101ページの「タイヤ交換」の項目を参照してください。

ジャッキがはずれると
車が急に傾き大変
危険です。

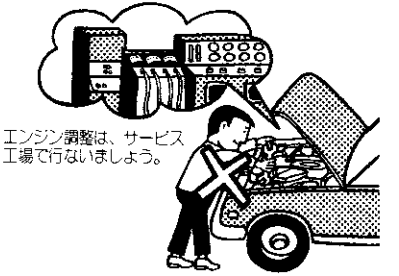
■灰皿を使用したあとは必ずしめてください。
あけたままにしておくとタバコの火が他の吸いがらに燃えひろがり，火災になるおそれがあります。

★注意

1．灰皿には吸いがらをためすぎないでください。
2．灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。
3．マッチ，タバコなどの火は消してから灰皿の中へ入れてください。

故障を防ぐために

■自己流のエンジン調整は行なわないでください。
部品は勝手に取りはずさないでください。



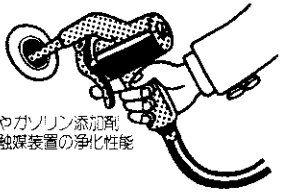
エンジン調整は、サービス
工場で行ないましょう。

無断複製禁止

■燃料を補給するときは

ガソリン車

必ず**無鉛ガソリン**を補給しましょう。



ディーゼル車

必ず**軽油**を補給しましょう。

■ブレーキ液，クラッチ液を補給するときはトヨタ純正ブレーキ・フルード2400Gを必ず使用してください。

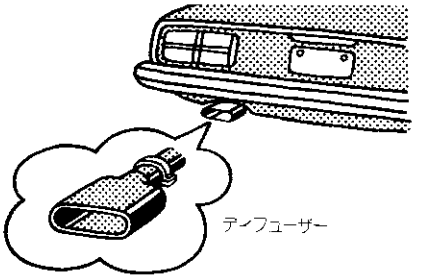
1．ブレーキ液に粗悪品を使用したり他の銘柄品を混用するとブレーキ系統に悪影響をあたえ危険です。

2．補給するときはタンク内へゴミがはいらないよう十分注意してください。

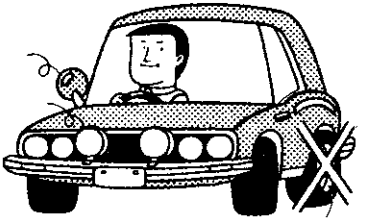
■エンジン・オイルを補給するときは同品質で，排出ガス規制適合エンジン専用のオイルを使用してください。

なお，エンジン・オイル添加剤を使用するときは，トヨタの推奨する添加剤を使用してください。

■排気管出口についているディフューザーは排気ガスの温度を下げるためのものですから取りはずしたり改造しないでください。



■車に装着する部品は指定されたものを使用してください。



1．車の走行に関連する部品は，メーカーが運輸省に届け出をした指定のもの以外は装着しないでください。

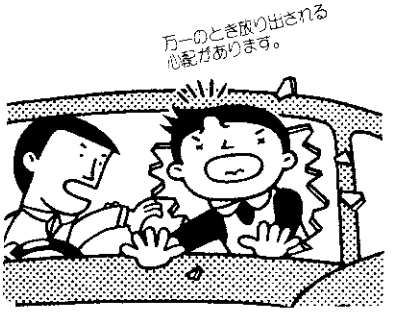
2．フォグ・ランプ，ラジオ，ステレオなどの電気部品を取り付けるとき既設の配線に容量以上の負荷をかけないでください。接続や固定を確実にしないと危険ですので取り付けは販売店にご依頼ください。

3．EFI（電子制御式燃料噴射装置）車およびESC（電子制御式横すべり防止装置）車は無線装置を取り付けるとエンジンに異常をきたしたりESCが誤作動することがあります。

無断複製禁止

お子様を乗せるときは

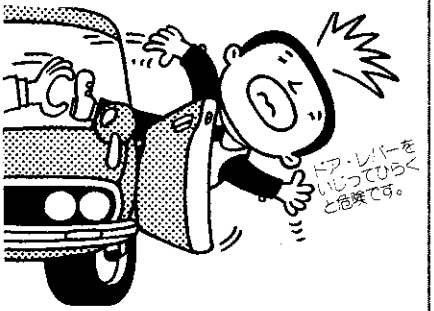
■なるべくおとなと一緒にリヤ・シートにすわらせてください。



1．助手席では運転のさまたげになります。

2．運転装置，装備などにさわらせると思いがけない事故がおきるおそれがあります。

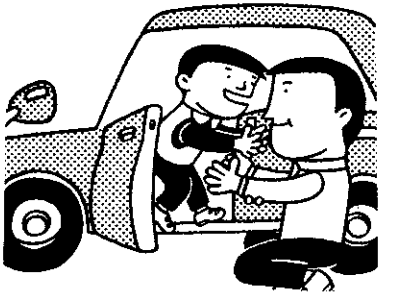
■ドアを確実にとじ必ず施錠してください。



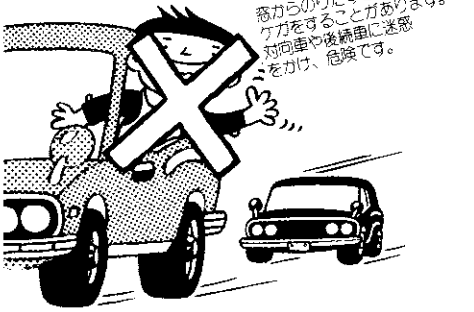
■必ずおとながドアの開閉をしてください。

■車からはなれるときは，お子様を一緒に連れて行ってください。

お子様のいたずらにより車の発進，火災などの思いがけない事故がおきるおそれがあります。また，炎天下での車内は高温となりたいへん危険です。



■窓から顔や手などを出させないようにしてください。



無断複製禁止